公益社団法人 五所川原青年会議所

2023年度

基 本 資 料

JCI™

2023年度 通常総会

2023年2月22日㈬　午後7時

プラザマリュウ五所川原

JCI Creed

The Creed Junior Chamber International
We Believe
That faith in God gives meaning and purpose to human life；
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations；
That economic justice can best be won by free men through free enterprise；
That government should be of laws rather than of men；
That earth's great treasure lies in human personality；
and That service to humanity is the best work of life.

日本語意訳

我々はかく信じる
真理は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家による統治を超越し
公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ
政府には人治ではなく法治が必要であり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最大の使命である

JCI Mission

To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.

日本語意訳

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders.

日本語意訳

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを
先導する組織となる。

JC宣言文

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

【東北JC宣言】

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

公益社団法人　五所川原青年会議所
２月通常総会　次第

日時　令和５年２月２２日（水）１９：００
場所　プラザマリュウ五所川原

○通常総会

１．総会開会宣言
２．国歌斉唱
３．ＪＣソング斉唱
　ＪＣＩクリード唱和
　ＪＣＩ Ｍｉｓｓｉｏｎ並びにＪＣＩ Ｖｉｓｉｏｎ唱和
　ＪＣ宣言文朗読並びに綱領唱和
　東北ＪＣ宣言文唱和
４．理事長挨拶
５．定足数の確認
６．議長就任
７．議事録作成人並びに署名人の選出
８．監査報告
９．議案
　第１号議案 ２０２３年度理事辞任（案）承認の件
　第２号事案 ２０２３年度理事選任（案）承認の件
　第３号事案 ２０２２年度事業報告（案）承認の件
　第４号議案 ２０２２年度収支決算（案）承認の件
　第５号議案 ２０２２年度特定資産事業実施積立金繰入（案）承認の件
　第６号議案 ２０２２年度財産目録（案）承認の件
　第７号議案 ２０２２年公益目的事業の認定変更（案）承認の件
10. 報告依頼事項
11. 委員会活動報告
12. 出向者報告
13. 監事講評
14. 総会閉会宣言

基　本　資　料

目　　次

１．２０２３年度理事長所信 …… ２
２．２０２３年度基本計画 …… ５
３．青年会議所（ＪＣ）とは …… ６
４．２０２３年度理事及び監事 …… １０
５．２０２３年度組織図 …… １１
６．２０２３年度出向者一覧 …… １２
７．２０２３年度委員会事業方針・事業計画 …… １３
８．２０２３年度年間スケジュール表 …… ２４
９．２０２３年度収支予算書 …… ２５
１０．２０２２年度をかえりみて …… ３２
１１．２０２２年度収支決算 …… ５１
１２．２０２２年度監査報告書 …… ６６
１３．２０２２年度庶務報告 …… ６７
１４．事務局備品目録 …… ６８
１５．２０２２年度行事一覧 …… ６９
１６．新入会員のために …… ７４

公益社団法人　五所川原青年会議所

２０２３年度　理事長　對　馬　幸　征

２０２３年度　ＬＯＭ　スローガン

【LOM スローガン】

TIME is Money

～価値ある時間を大切に～

公益社団法人五所川原青年会議所２０２３年度理事長所信

理事長　對　馬　幸　征

【はじめに】

「青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために」の熱き想いを持ち、青年経済人が相集い力を合わせていく。まさに近年からパンデミックした新型コロナウイルス感染症とどう戦い、地域や住み暮らす人達と共栄共存していくのか、我々青年会議所が掲げる「明るい豊かな社会」の創造に向け考えを改め、行動していかなければならない。

創立から５９年目を迎える五所川原青年会議所には、脈々と受け継がれてきた熱き志と実現力、強いリーダーシップと強く深い絆をもつ仲間、すなわち「結の精神」を継承し、今日まで、まちのため、ひとのために運動を展開することができました。

「修練・奉仕・友情」の三信条のもと、最適で最高の運動をするためにも青年会議所会員一同のお金には代えられない経験からくる地域への想いはやがて、「明るい豊かな社会」の創造に必ず寄与されることを願い、仲間と共に本年も邁進して参ります。

【人財拡大が巻き起こす運動に向けて】

直近で最も期首会員数が多かったのは２０１９年度で５２名でした。その年の前後の期首会員数は５０人をきり４０名前後を推移しておりましたが、２０２３年度期首は３３名とこの地域を取り巻く経済情勢や人口減少など様々な状況により減少の道をたどっております。

青年会議所運動が地域に伝わり広がっていく力は、我々が興す様々な活動を通じ会員相互の協調性と個々のスキルアップによって相乗効果を成して表れます。まちやひとづくりをする当会の運動を展開していくために、人財拡大をおこない一人でも多くの人を巻き込んで発信して参ります。

人財拡大が青年会議所運動の礎になり、力強く推進していくことで、会員の意識高揚そして組織の意識向上が、より地域へ寄与されることと確信しております。

【規律ある組織運営と情報発信に向けて】

どのまちにも、地域特有の背景に基づき課題があり目的をもって活動している団体は数えきれないほど存在します。そのなかでも、２０歳から４０歳までの限られた時間の中で活動をし、運動を展開する団体は青年会議所しかありません。さまざまな無駄を省き、青年会議所、仕事、家族のためにも、我々は組織力を強くし正確な情報を伝えていかなければなりません。

まちやひとづくりを地域に向けて若い力を集結し運動を展開する我々は、先輩諸兄から活動への意思を受け継ぎ守り高めていくためにも規律ある組織運営を確立致します。また会員一人ひとりが青年会議所会員という自覚を持ち活動していくために、各委員会と情報共有を図りながら行っていきます。

明瞭な財務並びに法制管理を堅持し、コンプライアンスや著作権などを公正明大で信があるＳＮＳを活用した情報発信を、総務広報委員会を中心に取り組んで参ります。

【社会・市民参画とまちづくりに向けて】

時代がコロナ禍により生活水準がめまぐるしく変化しております。五所川原青年会議所が展開していくまちづくり運動にも、昨年は大きな転換を迫られました。地方創生を国が掲げた２０１８年度から、日本全体の活力を上げる目的で行ってきた政策を今一度Withコロナに選定し活動をしていく必要があります。

当会は会員が市民を巻き込み続けてきた市民参画にスポットを当て構築してきた事業を行い、これからの会員や市民の社会参画意識を向上させるためにも、五所川原市と２０１２年度に協定され実施されていた五所川原市民討議会を基に、「市民」「行政」「当会」が三位一体による連携と協働して進んでいきます。

まちやひとの意識を変革していくことで、時代や世代の垣根をこえたまちづくり運動は更なる「明るい豊かな社会」の実現に繋がると信じて邁進して参ります。

【次世代を担う青少年へ向けて】

現代の子ども達を取り巻く環境は、コロナ禍を背に急速な情報社会へと大きく構造変則の渦中にあります。大人達も経験したことのない未曾有のパンデミックは子ども達に多大な影響を与え、新生活様式が国で制定され、学校での学び場、山・海・陸での遊び場でさえ制限が掛かっており、成長する機会が希薄になっております。

学び場では、学問はもとより学校での集団生活によって磨かれる規律や、スポーツを通じてお互い高めあう己の精神力の向上を図る機会や、自然を通じた遊び場では計り知れないほど培える友情などを育み、家族や仲間を思いやる青少年へと成長させる機会を創出して行っていきます。

子ども達の笑顔は喜怒哀楽からなり、様々な経験をへて自然とでる行動だと思います。

学問や規律を重んじ、友情に育み友情から学ぶ人間形成を醸成することが、地域の未来を担う人財になることを確信し行動して参ります。

【時代に適するまつりに向けて】

「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穣」「悪疫退散」の祈りを込め先人達や五所川原青年会議所の先輩諸兄から伝承されてきた「奥津軽虫と火まつり」は本年で５１回目を迎えます。昨年度は５０周年の節目を無事に迎えられ開催できたこと、そしてこれかも地域の幸せを願うまつりとして伝承し運動を展開していかなければなりません。

地域の伝統を更に発展していくなかで、時代に適して進化し続けるためには、会員一人ひとりのまつりに対する意識高揚を図る機会を創出し、地域の未来の担い手と活動を共に関係団体や地域企業との連携を密にし、時代に適したまつり開催に向け目指して参ります。

伝統の燈火を次世代へ絶やすことなく、まちが、ひとがこの「時」にしか味わえない価値を共感する「第５１回奥津軽虫と火まつり」を開催し、この地域の「弥栄」に繋げます。

【五所川原青年会議所の在り方・これからの方向性に向けて】

２０１２年度に公益社団法人へと五所川原青年会議所が法人格を移行し１１年が経ちました。この１１年間の公益事業は行政との連携を図り、確実な組織の運営体制を継続してきたことは先輩諸兄から

の賜物だと思っております。公益性の重要性を配慮し、次世代が思う青年会議所の在り方に語り掛け考慮していく必要があります。

２０２４年度に認承６０周年を迎える当会は、「２０２３年度アオモリサマーサミットin五所川原大会」を開催するにあたり、大会の成功を目的に青森ブロック協議会と連携、そして同じベクトルでいくという意思疎通を確実に行います。さらに五所川原の最大の夏祭りである「五所川原立佞武多」に参画し子供たちや大人たちを巻き込むことで、次なる担い手に地域の魅力というバトンを渡していけるよう進んでいきます。

県内８会員会議所会員一同が志しをひとつにすることや、この地域に住み暮らすひとたちがまちを想う意識を向上させることが、我々が想う「明るい豊かな社会」の発展に寄与されることと信じ邁進して参ります。

【結びに】

２０１１年1月２２日、会社の代表を担っていた親父は５３歳という若さで、家族と社員を残しこの世を去りました。会社のスキルやお客様に対する誠実さが認められ、取引先も大手ハウスメーカーへと繋がり、仕事の幅も広がり始めた矢先のことでした。当時、私は現場管理いわゆる職人で、経営の事など何一つ知らない状況で突っ走っていて、親父の事や会社も落ち着かない中起こった東日本大震災。職業柄、電気工事業というライフラインで人々の生活に直結するのもありすぐ被災地に向かいましたが、被災地は想像を絶する光景に言葉を失いました。まだまだ余震が続いている中、復興作業をしている場所の近くで若い人達が、 JCIという文字を背中に全国各地の県外ナンバーの車で給水や配給などのボランティア活動を行っていました。自分の事より人の事。親父や会社の事より被災地の事。はじめて時間の価値を考えさせられました。あとからその団体が青年会議所という事を知り、当時の先輩の誘いもあり返事をして２０１２年に入会致しました。

入会して月日が経ったなか、先輩諸兄からたくさんの学びをいただき、地域を担う仲間と切磋琢磨して共に成長して、深い絆の仲間ができました。

これまで自分や仲間との活動に費やした時間はお金に換算できないくらいの価値があります。

仕事に家族にＪＣに、費やす時間の価値は自分にしかわからず、価値ある時間を、どこに、誰に、どうやって費やしていくのかを自問自答し実行することで、歩みを止めることなく今日まで来ることができました。

混沌とした情勢が３年経ちWithコロナと時代が変化していき、本質を見定め共に歩んでいく時だからこそ、『TIME is Money～価値ある時間を大切に～』をLOMスローガンに掲げさせていただきました。我々、 JAYCEEが価値ある時間で能動的行動することが、まちやひとに変革をもたらし、やがて「明るい豊かな社会」の実現に繋がるものと確信し邁進して参ります。

基　本　計　画

【 基 本 理 念 】

「適切」「適正」
最適のタイミングで最高のパフォーマンスを

【 基 本 方 針 】

１.「地域」や「ひと」をつくる人財の拡大

２. スムーズで規律ある組織運営と情報発信の確立

３.「社会・市民参画意識向上」を推進するまちづくり運動

４. 規律や友情を想う、次世代を担う青少年の育成事業

５. 時代に適した「奥津軽虫と火まつり」の開催

６. －１. アオモリサマーサミットの主管
　　－２.「立佞武多」に関する次世代継承事業の開催
　　－３. 認承６０周年へ向けた意識向上

【 LOM スローガン 】

TIME is Money

～価値ある時間を大切に～

青年会議所（ＪC）とは

◇理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならなければならないと考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所（JC － JuniorChamber）です。

「われわれＪＡＹＣＥＥ（青年会議所会員）は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

◇特　質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特質は、会員の“年齢制限制”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満２０歳から４０歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長時間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満４０歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のサロンクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

◇組　織

会員は自分が住んでいる都市にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

１９４９年９月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、７０年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、７０４都市で活動を続け、会員約４万名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国６９７の青年会議所はそれぞれ集まって、４７ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を１０地区に分ける地区協議会に集められ、それらを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所（ＪＣＩ－ JUNIORCHAMBERINTERNATIONAL）に加盟し、国際的なＪＣ運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約１７万人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

◇事業目標“社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動７０年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所の日常活動の場を通じ、われわれ個々人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中にあって、市民を目標に向かつて一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。一市民でもある会員が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志より加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われます。

青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていきます。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求め、その門戸を大きく開いています。

２,０００字解説文より

国 際 年 会 議 所
JayceeInternational, Inc.（ＪＣＩ）

ＪＣＩは青年の世界でも最も強固で、大きな団体です。「すべての国、民族、宗教を含めた青年の集まり」それがＪＣＩのモットーです。

１９７７年１月末日現在の構成は、１００ＮＯＭ（NationalOrganizationMembers）、約８，６００ＬＯＭ（LocalOrganizationMembers）があり、全会員数は約３２万名です。

①個人の能力の開発
②青年の協力による社会開発（精神面、福祉面）
③より深い世界的相互理解の推進

これらの主目的に沿ったプログラムを調査－研究－計画－実行－評価の活動過程を通じて有益な指導力を取得し、また人間的向上を図る機会を活動の主体である青年が追求すると同時に世界に対して種々の働きかけて行うことがＪＣＩの目的です。

ＪＣＩ（JuniorChamberInternational）運動の始まりは８５年前の１９１５年にアメリカの一都市セントルイスに住む青年達が「青年も、事業あるいは市民生活の諸問題に関与すべきである。」との主旨のもとにUnitedStatesJuniorChamberofcommerceを設立しました。その後、清廉な言動が一都市から全米へ、更に世界各国に発生を促すことになり、続々青年団体が設立されました。

そして、１９４６年第一回国際青年会議所の会議がパナマで聞かれ、国際的活動が開始されました。ＪＣＩは７５カ国（ＮＯＭ）、１２，０００チャプター（ＬＯＭ）のＪＣが加入しており、会員数（Ｊａｙｃｅｅ）は約３２０，０００人に達し、同一目標をめざしております。日本は１９５１年、第６回会議で初めてＪＣＩへの承認を受けてから、現在においてはアメリカに次いでＪａｙｃｅｅの最も多い国へと拡大しました。ＪＣＩは結成以来、毎年１回加入国のいずれかでＪＣＩの最高議決機関である世界会議が開催されており、日本に於いても１９５７年第１２回会議が東京で、１９６６年には京都で第２１回、１９８０年には大阪で第３５回、１９８６年には名古屋で第４１回、２０００年には札幌で第５５回世界会議がそれぞれ開催されました。皇太子殿下の御臨席を始め、各国の著名士が多数参加のもとに、世界各国からの代表団を日本に迎え、ＪＣＩ世界会議の歴史の輝かしい多大な成呆を残しました。また、ＪＣＩは世界会議の他に６地域に分けて、各地域ごとに毎年一団地域会議を開催しており、１９５２年東京で第２回アジア地域会議（１９６２年よりＪＣＩの定款改正でＪＣＩコンファレンスと改称）が聞かれました。日本はＪＣＩ加入以来、毎年世界会議に多数の代表を送り、ＪＣＩ発展に寄与している。ＪＣＩ内部においても高く評価されており、日本から初めて、１９７０年度ＪＣＩ会頭に前田博君が、また、１９８１年度には長尾源一君が選ばれました。同じ目的を達成するため世界各国のＪＣの結束がＪＣ運動を世界的規模でとらえ、ＪＣ運動の発展を図ろうとするものであります。

日本青年会議所（日本ＪＣ）

第二次世界大戦後、日本の社会は精神的にも物質的にも極度に荒廃した状態であった。現状を一日も早く収拾し、新しい秩序を打ち立てなければならないという声が次第に高まって来ました。この時、経済界に活躍している青年達の聞に一つのグループ。を作ろうという機運が生じました。そのグループの目的は、青年がお互いに切瑳琢磨し、今後の日本の各界における指導者としての基盤を確立し、青年らしい情熱を燃やして“より良い社会”を着々と実現してゆこうというものでありました。

このような趣旨のもとに集まった青年の手によって東京青年会議所（その後商工会議所法の制定により、青年会議所と改称）が１９４９年９月３日に設立された。これが日本における青年会議所運動の先駆であります。

このような理想主義的な運動は日本各地の指導的青年層に深い共感を与え、大阪、名古屋、前橋、広島､岡山等に続々と青年会議所が誕生しました。これらＪＣ相互の連絡のため「全国青年会議所懇談会」が１９５０年に開催され、次いで翌１９５１年２月９日に７都市のＪＣを会員とし、全国的な統合体として社団法人日本青年会議所が設立され、通産大臣より認可されました。さらに１９５１年カナダのモントリオールで、開催された国際青年会議所第６回世界会議で日本ＪＣのＪＣＩ加入が認承されました。日本ＪＣ設立以来、現在まで７０余年、その間日本ＪＣは急速な拡大をみました。２０２３年現在、６７９余のローカル青年会議所（LocalOrganizatiünMember 略してＬＯＭ）その個人会員数は、２万５千余名に達しました。

日本ＪＣの組織及び機能

日本青年会議所の機能は各地ローカル JC（ＬＯＭ）の活動が円滑活発に行われやすくするため、ＬＯＭへの連絡調整の機能をつとめるとともに対外的にはＪＣＩの構成メンバー、すなわち国家 JC（NationalOrganizationMember 略してＮＯＭ）としての機能を果たしております。

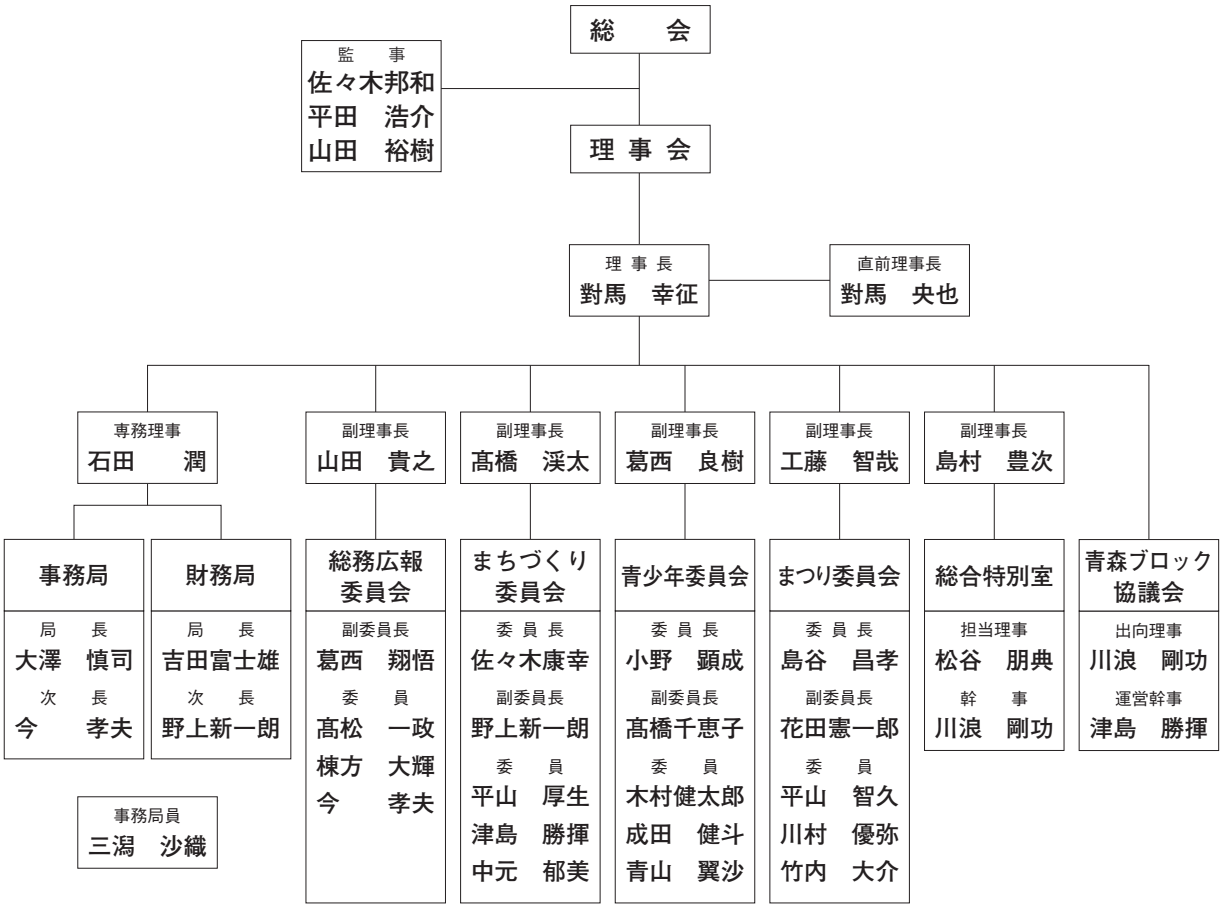
日本ＪＣの組織は１９６７年９月の組織改正によって大幅に変更され、縦にはＪＣＩの一員でＮＯＭとしてＪＣＩの地域担当の副会頭（ＶＰＯ）の統括下にあります。

国内組織において、各会員会議所は各地区担当常任理事の統括下にありますが直接には各ブロック協議会会長（評議員）につながっており、ＬＯＭとして日本 JC の構成員であります。日本 JC には最高の意思決定機関として総会（日本 JC 定款２０～２９条）がありますが、その下に評議員会、理事会があって日本 JC の執行機関の機能を果たしています。

公益社団法人 五所川原青年会議所 2023年度 理事及び監事

理事長	對馬 幸征
理事	對馬 央也
理事	山田 貴之
理事	髙橋 渓太
理事	葛西 良樹
理事	工藤 智哉
理事	島村 豊次
理事	石田 潤
理事	松谷 朋典
理事	川浪 剛功
理事	佐々木 康幸
理事	小野 顕成
理事	島谷 昌孝
理事	大澤 慎司
理事	吉田 富士雄
監事	佐々木 邦和
監事	平田 浩介
監事	山田 裕樹

公益社団法人 五所川原青年会議所2023年度組織図



２０２３年度　出向者一覧

〈東北地区協議会〉

■東北青年フォーラム運営委員会	委　員	川浪剛功
■総務委員会	委　員	小野顕成

〈青森ブロック協議会〉

■アオモリサマーサミット運営委員会	副会長	對馬央也
	副委員長	大澤慎司
■LOM 支援委員会	委員長	川浪剛功
	運営幹事	津島勝揮
■広域連携推進委員会	委　員	髙橋渓太
■JC 運動拡大委員会	委　員	佐々木康幸
■総務委員会	委　員	吉田富士雄
■アカデミー大学	塾　生	花田憲一郎
	塾　生	今　孝夫
	塾　生	津島勝揮
	塾　生	中元郁美